

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年2月13日
【四半期会計期間】	第67期第3四半期（自平成26年10月1日至平成26年12月31日）
【会社名】	株式会社 三城ホールディングス
【英訳名】	PARIS MIKI HOLDINGS Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 多根 裕詞
【本店の所在の場所】	東京都中央区銀座一丁目7番7号 同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。
【電話番号】	-
【事務連絡者氏名】	-
【最寄りの連絡場所】	東京都港区港南四丁目1番8号
【電話番号】	03(5781)6018
【事務連絡者氏名】	経理チーフ 吉田 公彦
【縦覧に供する場所】	株式会社 三城ホールディングス 姫路事務所 （兵庫県姫路市飾磨区三宅一丁目138番地） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第66期 第3四半期 連結累計期間	第67期 第3四半期 連結累計期間	第66期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (百万円)	43,284	41,612	56,903
経常利益 (百万円)	1,327	1,067	1,035
四半期(当期)純利益 (百万円)	895	742	419
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,501	813	1,096
純資産額 (百万円)	40,408	39,896	40,003
総資産額 (百万円)	53,406	53,433	53,788
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	17.39	14.43	8.14
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	75.1	74.0	73.8

回次	第66期 第3四半期 連結会計期間	第67期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	0.62	4.06

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

第3四半期連結累計期間における国内の経済状況は、景気回復の動きは鈍いものの、企業や家計の所得面は回復しつつあると見られています。しかしながら小売業界におきましては、個人消費における成長率の低迷は続いており、消費税増税による影響が続いていると思われまます。

当グループにおきましては、お客様に付加価値を実感していただける商品の開発や新たなサービス、そして社員の教育が大事な時であると認識しており、社員のコンサルタント力を高めてまいりました。

主要子会社であります㈱三城におきましては、不採算店舗の退店を進め、将来性が見込まれる店舗に絞っての出店を行ってまいりましたが、既存店の売上高が想定より伸びず、全社合計も前年を下回る実績となりました。

なお、㈱三城における新規出店は6店舗、退店は21店舗となっており、当初の年間計画である新規出店7店舗、退店25店舗につきましては、突発的な案件もあり、新規出店9店舗、退店32店舗となる見込みです。

海外子会社におきましては、店舗の整理を進めておりますオーストラリア法人の不採算額は減少しておりますが、利益を出しております東南アジア法人の利益確保が以前ほど見込まれず厳しくなっております。また、移転を進めておりますイギリス法人の家賃負担などが一時的に増えていることなども影響し、海外法人の利益合計はマイナスとなっております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におきましては、売上高41,612百万円（前年同期比3.9%減）、営業利益716百万円（前年同期比36.7%減）、経常利益1,067百万円（前年同期比19.6%減）、四半期純利益742百万円（前年同期比17.1%減）となりました。

報告セグメント情報の状況は、次の通りであります。

1)日本

国内の売上高は36,063百万円（前年同期比4.4%減）、セグメント利益815百万円（前年同期比26.9%減）となりました。

2)海外

海外の売上高は5,821百万円（前年同期比0.7%減）、セグメント損失95百万円（前年同四半期はセグメント利益18百万円）となりました。

(2)財政状態

総資産は前連結会計年度末に比べ354百万円減少して53,433百万円となりました。これは主に流動資産における現金及び預金が1,943百万円増加したものの、投資その他の資産におけるその他が2,048百万円減少したことによるものです。

負債は前連結会計年度末に比べ247百万円減少して13,537百万円となりました。これは主に流動負債における支払手形及び買掛金が255百万円、短期借入金が355百万円増加したものの、その他の流動負債が826百万円減少したことによるものです。

純資産は前連結会計年度末に比べ107百万円減少して39,896百万円となりました。これは主に利益剰余金が184百万円減少したことによるものです。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4)研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における、グループ全体の研究開発活動費の金額は76百万円です。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	223,000,000
計	223,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数 (株) (平成26年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	56,057,474	56,057,474	東京証券取引所 市場第一部	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式。単元株式数は100株です。
計	56,057,474	56,057,474	-	-

(注) 「提出日現在発行数」欄には、平成27年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使(旧商法に基づき発行された転換社債の転換を含む。)により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万 円)	資本準備金残 高(百万円)
平成26年10月1日～ 平成26年12月31日	-	56,057,474	-	5,901	-	6,829

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 4,573,300	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式。単元株式数は100株です。
完全議決権株式（その他）	普通株式 51,349,800	513,498	同上
単元未満株式	普通株式 134,374	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式。
発行済株式総数	56,057,474	-	-
総株主の議決権	-	513,498	-

（注） 「完全議決権株式（その他）」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株（議決権の数20個）含まれております。

【自己株式等】

平成26年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合（％）
株式会社三城 ホールディングス	東京都中央区銀座 一丁目7番7号	4,573,300	-	4,573,300	8.16
計	-	4,573,300	-	4,573,300	8.16

（注） 1. 上記のほか、株主名簿上は当社名義となっておりますが実質的に所有していない株式が900株（議決権の数9個）あります。なお、当該株式数は、上記「発行済株式」の「完全議決権株式（その他）」の欄の普通株式に含まれております。

2. 当第3四半期会計期間末日現在の自己株式数は4,573,500株であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,642	16,585
受取手形及び売掛金	4,041	3,260
有価証券	865	866
商品及び製品	9,403	10,140
原材料及び貯蔵品	905	1,037
繰延税金資産	715	715
その他	1,124	1,289
貸倒引当金	128	129
流動資産合計	31,569	33,765
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,225	3,135
機械及び装置(純額)	14	14
工具、器具及び備品(純額)	1,208	1,187
土地	1,062	1,062
建設仮勘定	43	53
その他(純額)	92	66
有形固定資産合計	5,646	5,520
無形固定資産		
1,690	1,690	1,662
投資その他の資産		
長期預金	2,000	2,000
敷金及び保証金	7,039	6,759
建設協力金	258	192
その他	5,594	3,545
貸倒引当金	11	11
投資その他の資産合計	14,881	12,485
固定資産合計	22,219	19,668
資産合計	53,788	53,433

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,852	2,107
短期借入金	1,664	2,020
1年内返済予定の長期借入金	-	4,000
未払金	2,563	2,278
未払法人税等	566	396
賞与引当金	98	40
店舗閉鎖損失引当金	19	41
その他	2,149	1,322
流動負債合計	8,915	12,207
固定負債		
長期借入金	4,000	500
役員退職慰労引当金	68	79
資産除去債務	352	352
その他	448	397
固定負債合計	4,869	1,329
負債合計	13,785	13,537
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,901	5,901
資本剰余金	6,829	6,829
利益剰余金	35,050	34,865
自己株式	8,402	8,402
株主資本合計	39,378	39,193
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	165	133
為替換算調整勘定	145	219
その他の包括利益累計額合計	311	353
新株予約権	-	7
少数株主持分	313	341
純資産合計	40,003	39,896
負債純資産合計	53,788	53,433

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	43,284	41,612
売上原価	14,181	13,245
売上総利益	29,103	28,367
販売費及び一般管理費	27,971	27,651
営業利益	1,131	716
営業外収益		
受取利息	31	23
受取賃貸料	16	15
受取補償金	24	11
為替差益	97	229
受取手数料	10	9
貯蔵品売却益	0	60
店舗閉鎖損失引当金戻入額	-	0
その他	87	90
営業外収益合計	270	442
営業外費用		
支払利息	31	37
支払手数料	22	31
その他	19	22
営業外費用合計	73	90
経常利益	1,327	1,067
特別利益		
固定資産売却益	10	0
投資有価証券売却益	196	544
特別利益合計	206	544
特別損失		
固定資産除売却損	47	46
関係会社出資金評価損	-	8
店舗解約損失金	8	10
投資有価証券評価損	0	5
店舗閉鎖損失引当金繰入額	19	62
特別損失合計	75	132
税金等調整前四半期純利益	1,458	1,479
法人税等	544	742
少数株主損益調整前四半期純利益	914	736
少数株主利益又は少数株主損失()	18	6
四半期純利益	895	742

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	914	736
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	233	32
為替換算調整勘定	354	108
その他の包括利益合計	587	76
四半期包括利益	1,501	813
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,457	784
少数株主に係る四半期包括利益	44	28

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

当社及び一部の国内連結子会社は、税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入等に対して債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
㈱ルネット	3,000百万円	3,800百万円
その他	422百万円	379百万円

2 貸出コミットメントライン契約

当社グループは、資金調達の機動性及び安定性の確保を目的として、取引銀行1行とグローバル・コミットメントライン契約を締結しております。また、取引銀行5行とコミットメントライン契約を締結しております。

貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
(当社及び連結子会社)		
貸出コミットメントの総額	6,500百万円	6,500百万円
借入実行残高	1,517	1,636
差引額	4,982	4,863
(連結会社以外の会社)		
貸出コミットメントの総額	5,000百万円	5,000百万円
借入実行残高	3,000	3,800
差引額	2,000	1,200

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
減価償却費	932百万円	857百万円
のれんの償却額	71	71

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月15日 取締役会	普通株式	463	9.00	平成25年3月31日	平成25年6月13日	利益剰余金
平成25年11月13日 取締役会	普通株式	463	9.00	平成25年9月30日	平成25年12月9日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月15日 取締役会	普通株式	463	9.00	平成26年3月31日	平成26年6月10日	利益剰余金
平成26年11月12日 取締役会	普通株式	463	9.00	平成26年9月30日	平成26年12月9日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	日本	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	37,551	5,732	43,284	-	43,284
セグメント間の内部 売上高又は振替高	152	128	280	280	-
計	37,703	5,861	43,565	280	43,284
セグメント利益	1,114	18	1,132	1	1,131

(注)1. セグメント利益の調整額 1百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	日本	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	35,907	5,705	41,612	-	41,612
セグメント間の内部 売上高又は振替高	156	115	271	271	-
計	36,063	5,821	41,884	271	41,612
セグメント利益又は損失()	815	95	719	3	716

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 3百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失()は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	17円39銭	14円43銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	895	742
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	895	742
普通株式の期中平均株式数(千株)	51,485	51,484
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	平成26年9月1日取締役会決議の新株予約権 (新株予約権の数5,450個)

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

当社は、以下のとおり当期中間配当についての取締役会決議を行っております。

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年11月12日 取締役会	普通株式	463	9.00	平成26年9月30日	平成26年12月9日	利益剰余金

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年 2月13日

株式会社三城ホールディングス

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 秋山 賢一 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鈴木 聡 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社三城ホールディングスの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社三城ホールディングス及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。